

Title	齋藤先生古稀祝賀紀念論文集(齋藤先生古稀祝賀會編)
Sub Title	
Author	田中, 荊三(Tanaka, Keizo)
Publisher	三田史学会
Publication year	1938
Jtitle	史学 Vol.16, No.4 (1938. 4) ,p.211(709)- 212(710)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19380400-0213">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19380400-0213</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

には手頃の書である。(保坂三郎)

### 哲學史學文學論文集 (九州帝國大學 法文學部印行)

十周年 念法學論文集及び 十周年 念經濟學論文集が九州帝國大學法文學部より刊行され學界に寄與する所尠くなかつたが、今回更に同學部より 十周年 念哲學史學文學論文集の印行を見るに至つたことは學界のため寔に欣快の情を禁じ得ぬ。

本書には哲學史學及び文學の三部門に互る論文が収録されてゐる。先づ史學に關する論文としては、長壽吉氏のハプスブルグ・ブルボン兩朝爭覇時代ナント勅令廢止前の時期に於ける北歐小國の動容、重松俊章氏の孫吳の對外發展と遼東との關係、日野開三郎氏の便錢の語義を論じて唐宋時代に於ける手形制度の發達に及ぶ等を擧げることが出来る。長氏は其の論文に於て特に普露西侯國に就いてのみ説述し、他の北歐小國の動容に就いては之を省略されてゐる。重松氏は其の論文に於て特に江南の孫吳と遼東の公孫氏との政治、經濟的關係を中心として孫吳の對外發展の歴史を概観されてゐる。日野氏は其の論文に於て、便錢の語義を考究し、此の語義轉訛を通じて便錢の發達過程を明かにされてゐる。然し論述の範圍を主題の如くに限定したため、便錢に關する數多の重要論點を貴稿の範圍外に取殘された。此等の點について日野氏は何れ後日機を見て補足されることになつてゐる。その他史學に關係ある論文として楠本正繼氏の宋明儒學に關する一考察、春日政治氏の西大寺本金光明最勝王經の白點について、小牧健夫氏の新

たに發見されたグライスト書翰について、豊田實氏の英和及び和英辭書の發達、吉町義雄氏の九州方言通信調査概要等を擧げることが出来る。尙本書には中島愼一氏のルツソーの國家論、佐久間鼎氏の默照體驗の意義、佐野勝也氏のバルト神學の根本問題、矢田部達郎氏の學習過程に於ける禁止及び促進の問題、新開長英氏のカント哲學に於ける道德的目的論の意義について、田中晃氏的人格の社會的規定、秋重義治氏の知覺的空間の構造に關する實驗的研究第六報告、佐藤通次氏の愛一言學によつて語る哲學、小野島行忍氏の梵詩リツ・サン・ハーラ和譯、Seichi Naruse 氏の *Mon-faigue et la Sagesse Extrême-orientale* 等哲學に關する論文が多く収録されてゐる。

要するに本書は九州帝國大學法學部が多年學界に寄與された一大紀念塔とも稱すべきものである。われらは現時の九大の法學部教授、助教授講師諸氏に敬意を表すると同時に、今はなき同學部の故教授、助教授講師諸氏の靈に合掌するものである。(宮島貞亮)

### 齋藤先生古稀祝賀會編 古稀祝賀記念論文集 (齋藤先生古稀祝賀會編)

本書は齋藤斐章氏が昨年古稀に達せられたのを祝はれて、氏の知友及び教へを受けた諸氏が起草せられた論文を集めたものであり、卷頭の中川一男氏の書かれた『齋藤斐章先生傳』及び『齋藤先生譜』齋藤先生著述年表』約八十頁に先生の長年の業績が述べられて居り、如何に先生が學界及び教育界に貢獻せられたかが判るのである。なほその著述年表によれば、先生の研究が歴史學全

般及び教育學の廣範圍にわたり、然も「ヴェルサイユ和約以後獨逸の十五年」の論文の如き最近世史にまで及んで居ることを知り、そのうむことなき研究態度には敬服の念を起さざるを得ないのである。この論文集も先生の研究の廣範圍に互れる如く、その交友の多方面にあるため又非常に廣範圍に互り、之を一々紹介することは到底なし得ないので、ここには單に題目をあげるにとどめ好學の士の本書につき讀まれんことを希望するのである。

伽藍式より見たる天台宗と眞言宗

石田茂作

明將周鶴芝、馮京第の日本乞師に就いて

石原道博

關東地方の地形區分に就いて

花井重次

近世の森林經濟と酒樽

鳥羽正雄

所謂ビスマルク體制の端緒に就いて

長壽吉

村上源氏の使命と通親の事業

龍 肅

和語陰陽錄の成立と構造

乙竹岩造

ルーテルの Sermon von Wucher

太田 廣

文久元年米國政府の我國に對する示威行動提議の意義

大塚武松

會津藩に於ける教學としての吉川神道

渡邊貞雄

奥の御館藤原氏と京洛文化の輸入

菅野義之助

新潟縣枋尾織物の發生的研究

武見茅二

地圖より見たる長崎居留地の變遷

田中啓爾

後水尾天皇宸翰逆耳集について

辻 善之助

イスタンプール名稱考

内藤智秀

經濟的ルネサンスに於ける『銀の支配』について

中川一男

水戸學の新史料と新考察

中山久四郎

上州利根、吾妻兩郡境界論争の地理的意義

内田寛一

良俗違反の意義

梅原重厚

梁の武帝の佛教信仰について

山崎 兎

湘南砂丘地帯の農作

山本幸雄

教育上の自由と統制

馬上孝太郎

埴輪より見たる上古時代の葬禮

後藤守一

元代の僧侶と社會

有高 巖

宋會要の編修に關する宋會要の記載について

淺海正三

モンロー主義とラテン亞米利加諸國及汎米主義

齋藤清太郎

十王信仰に關する諸問題及び閻羅王受記經

酒井忠夫

調庫雜考

喜田新六

鎌倉時代に於ける東大寺の學園

木代修一

郡司武士化の根底的要素に關する考察

宮城輝昌

頼山陽の藝術趣味について

下村三四吉

倭姫命考

肥後和雄

ハットウシリシユ三世と彼の王后プロウヘバシユの祈願文

杉 勇

熊澤了介(蕃山)の學問とその藝術論

松本彦次郎

(田中判三)

Alfons Dopsch: The Economic and

Social Foundations of European

Civilization (1937, Kegan Paul, London)